



(1) ダイバーシティ&インクルージョンの推進

誰もが隔てなく、学び、働く場を創造し、知的活力に溢れた環境のもと、東京工業大学の目的及び使命である文化の進展及び人類の福祉への貢献を目指すことを宣言。その中でも多様性向上の方策として、「外国人留学生の割合、日本人の留学経験者の割合をさらに高める」「女子学生比率を飛躍的に高める」「文化的背景や言語、性差、ライフステージによって教育研究活動が制約されることがない環境を実現する」——などを挙げています。

(2) 学士課程入試への女子枠導入

ダイバーシティ&インクルージョン (D&I) 推進の一環として行うもので、2024年4月入学者の入試では4学院 (物質理工学院、情報理工学院、生命理工学院、環境・社会理工学院) で総合型選抜および学校推薦型選抜において58人の女子枠を導入。2025年4月入学者の入試では、残りの2学院 (理学院、工学院) で総合型選抜において85人の女子枠を導入する。最終的に、全学院の女子枠は募集人員の約14%になる。

(3) グローバル理工人育成コース

国際力を統合的に育成するカリキュラム。ジョージア工科大学の教員による「グローバルリーダーシップ実践」、チュラーロンコン大学との異文化課題解決型学修、マサチューセッツ工科大学との学生交流などを用意。コースの修了生は、海外大学進学、グローバル企業就職など世界に飛び立って活躍する。

(4) Hisao & Hiroko Taki Plaza

東京工業大学の卒業生である、株式会社くるなび創業者・取締役会長の滝久雄氏から、「留学生を中心とした学生の交流及び支援の場にしてほしい」と多額の寄附があり、それを原資に建設された。地上3階・地下2階、延べ床面積約4900m²。企画・設計の段階から学生たちの自主的な活動が尊重され、学生による内装やフロアコンセプト案が採用された。学生の組織である「Taki Plaza Gardener」が運営に携わっている。



世界最先端の研究で社会に貢献する人材を育成

世界最高峰の理工系総合大学を目指す東京工業大学では、世界最先端の研究が目白押しです。例えば、「集積(GreenIX) (グリーン・イクス) 研究・人材育成拠点」では、東京工業大学が代表機関となり、豊橋技術科学大学、広島大学と連携して、低環境負荷等のグリーン半導体に資する研究と人材育成に注力しています。

また、東京工業大学科学技術創成研究院の菅野次特命教授らの研究グループは、全固体電池の開発で世界をリードしています。最新の研究では伝導率が世界最高の超リチウムイオン伝導体を開発。全固体電池設計の新しい方向性を示しました。ライフサイエンス分野での研究にも目覚ましいものがあります。手術でがん組織のみを切除することは容易なことではありませんが、生命理工学院生命理工学系の神谷真子教授は、がんを光らせることができる「蛍光プローブ」と呼ばれる物質の研究開発に取り組んでいます。最近では、識別できるがん細胞の種類を飛躍的に増やせる「次世代型ラマンプローブ」の研究で世界をリードし

ています。こうした研究を踏まえて、益学長は「大学は卒業して社会へ出るための場という側面もありますが、研究を通して社会に貢献している場であるということを確認することがとても重要です。本学は、学生の8割以上が大学院修士課程に進んでおり、社会貢献のための人材育成の場として核となっているのが卓越大学院プログラムです」と話します。現在、3つの卓越大学院プログラムが稼働しており、「エネルギー・情報卓越教育院」では、これからのエネルギー変革をリードする卓越した博士人材を育成。「超スマート社会卓越教育院」では、超スマート社会の実現に向けて、リーダーシップのある知のプロフェッショナル「スーパードクター」を養成しています。また、「物質・情報卓越教育院」では物質と情報をリンクさせた独創的な研究を進める人材の育成を行っています。

東京工業大学には最高の学びの環境が整っています。スーパーコンピュータTSUBAMEをはじめとして、学生が利用できる最先端の研究設備が十分に揃っています。また、学生交流施設Hisao & Hiroko Taki Plaza^①では学生が交流イベントを企画するなど、学生の自主性を育む拠点として機能しています。世界トップレベルの研究者や一流の文化人による学びをサポートする体制が整っているのも特色です。例えば、学修コンシェルジュは、教職員と同窓会のメンバーで組織され、学生の疑問や困り事の解決に向けて支援します。また、教員がアカデミック・アドバイザーとして、学士課程入学時から卒業・修了まで学生一人ひとりを担当。学生の成績や履修状況等を考慮しながら相談や指導を行い、時には学生が記録した学修ポートフォリオを参照しながら、将来の夢や今後の学修計画の実現をき

め細かくサポートします。特に、大学生生活に不慣れな学士課程入学1年目には、セミナーや面談を通して、高校と大学の違いを含め、大学における学修方法や大学生活に関してサポートします。大隅良典記念奨学金をはじめさまざまな奨学金制度も整備しています。益学長は「本学の前身の東京職工学校は、『工業工場があつて而して工業学校を起さしめんとした』としています。これは、新たな産業を興すことができるリーダーやアントレプレナーの涵養というミッションともつながるものです。本学では、建学の精神を改めて思い起こし、人々がウェルビーイングを感じることができるとともに、みなさんも高い志を持って挑戦しましょう」とエールを送っています。



益一哉学長
1977年、東京工業大学工学部 電子物理工学科卒業。1982年、同大学大学院理工学研究科電子工学専攻博士後期課程修了。専門分野は電子デバイス、集積回路工学、ワイヤレスセンサネットワーク。東北大学電気通信研究所助教授、東京工業大学精密工学研究所教授、同大学科学技術創成研究院院長などを歴任。要職に一般社団法人エレクトロニクス実装学会会長(2017-19) など。2018年4月より現職。

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1 総務部広報課 TEL 03-5734-2975 <https://www.titech.ac.jp/>

東京工業大学

世界最高峰の理工系総合大学の実現に向け 新たな知の創造とイノベーションを創出 ウェルビーイングな社会づくりに貢献する

世界最高峰の理工系総合大学の実現を目指す東京工業大学は、「科学技術の新たな可能性を掘り起こし、社会との対話の中で新時代を切り拓く」ことをビジョンに、先導的な大学改革に取り組んでいます。大岡山、すずかけ台、田町の3キャンパスの環境整備により、産学官連携ネットワークも強化。分野を超えた科学の統合により理工学を再定義することで、人々がウェルビーイングを感じられるような社会に寄与する、新たなイノベーションの創出を目指しています。

なお、国立大学法人東京工業大学は2024年度中を目途に国立大学法人東京医科歯科大学と統合し、新大学「東京科学大学 (仮称)」の設立を目指しています。

3キャンパスの連携を強化
ダイバーシティ推進で「女子枠」も

東京工業大学は創立150周年を迎える2031年に向け、「キャンパス・イノベーションエコシステム構想2031」を策定し、イノベーションを創出するための環境整備を進めています。学部大学院一貫教育等を行う教育・研究の場としての大岡山キャンパス、大型プロジェクト研究等を行う研究・実験の場としてのすずかけ台キャンパス、国際的な産業・研究拠点としての田町キャンパスと3キャンパスを性格づけし、これらを有機的に結ぶことで産学官連携ネットワークを強化しようというものです。田町キャンパスには、教育研究施設のほか、大規模な産学官連携施設、さらにオフィスやホテル、商業施設、保育所などが入る予定です。

また、東京工業大学では「ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言^②」を公表し、強力で推進しています。年齢や性別、国籍、人種などの多様性とどまらず、教育研究のスタイルや価値観などの多様性を含めて互いに尊重しあうことで、よい影響をもたらすことを目指しています。このため、2023年度には8部局で女性限定の教員公募を行いました。また、2024年4月入学の学士課程入試からは、総合型選抜および学校推薦型選抜において女性を対象とした「女子枠^③」を導入します。

学部と大学院を一体化し
くさび型の教養教育を推進

東京工業大学は2016年に、日本で初めて学部と大学院を統一した「学院」を開設しました。学士課程と修士課程、修士課程と博士課程後期課程のカリキュラムを継ぎ目なく学修できるシステムです。

また、「留学・国際経験」と「英語による教育」を重視し、多彩な留学プログラムを実施するとともに、ユニークな「グローバル理工人育成コース^④」なども設置しています。修士課程修了までに国際経験をした学生の割合を90%にするという目標を掲げています。

このほか、「データサイエンス・AI全学教育プログラム」を実施しているのをはじめ、2019年から「B2Dスキーム (B2D特別選



田町キャンパス完成予想図 (NTT都市開発、鹿島、JR東日本、東急不動産グループ提供)